

# Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life



VOL. 176

開祖随感

## 聞き上手は嫌われない

「佼成会の会員さんの集まりでは、本当に話がしやすいですね」と言ってくださる方がいました。信者さんがみんな、話し手の目をまっすぐ見て、いちいち笑顔でうなずいて聞いてくださる。それが本当にうれしいというのです。

佼成会の会員のみなさんは、いろいろすばらしいところを具えておられますが、その一つが、この聞き上手だといってもいいでしょう。話し手は、話すことで自分を表現しているわけですから、聞き手がその話に共感し、受け入れてくれるかどうか、なによりも気になります。聞き手が無表情だったり、そっぽを向いたり、ざわついていたりすると、自分が無視され

ているような気がして、話に力が入らなくなってしまうのです。

法座でも、そうです。法座主があれこれ気をとられて上の空で人の話を聞いていると、相手は自分が無視されたように感じてしまいます。真剣にうなずいて聞いてもらえると、それだけで救われた気持ちになるのです。

法座では、まず聞き上手になる修行が大切です。話し上手はうっかりすると嫌われることもありますが、聞き上手が嫌われることは、まずありません。

(『開祖随感』9, p. 158-159)

### Living the Lotus 2020年5月号 (Vol.176)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1  
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: [living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 長田健祐

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教団体です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

悠々として、心安らかに

立正佼成会会長 庭野日鑛



### 妙好人・石見の善太郎

現在の島根県浜田市に、<sup>ちかしげせんたろう</sup>近重善太郎という<sup>みょうこうにん</sup>妙好人がいました。江戸時代の、  
終わり近くのことです。

妙好人というのは、<sup>びやくれんげ</sup>白蓮華にたとえられるほど清らかな人柄の、信心深い念  
仏者のことです。若いころは<sup>そこう</sup>素行が悪く、村人から「毛虫の悪太郎」と呼ばれ  
ていたその人が、やがて<sup>あみだ</sup>阿弥陀さまの信仰に目ざめ、多くの人から「<sup>いわみ</sup>石見の善太  
郎さん」と敬愛されるようになったのです。

ある日、その善太郎を信仰仲間が訪ねてきました。本山参りの際に一泊させて  
くれた<sup>どうぼう</sup>同朋で、善太郎は笑顔で迎えますが、その人はいきなり善太郎をどろぼう  
呼ばわりして、激しく罵ります。着物を盗んで持ち去ったというのです。

すると善太郎は、身に覚えがないにもかかわらず、「それは悪うございました」  
と<sup>ていちょう</sup>丁重に詫びて、着物の代金を渡したうえ、「何もありませんが、せめて草餅をおう  
ちの人に」と、<sup>そな</sup>仏壇に供えた<sup>ぬす</sup>草餅を包んで<sup>みやげ</sup>土産にもたせました。

信仰仲間が家に帰って、みんなで草餅を食べようとしたときです。その家で働  
く娘が、なぜかうつむいたまま、手にもとりません。「どうして食べないのか」。主人  
がそう尋ねると、娘は「善太郎さんが盗ったと話しましたが、あの着物を盗んだの  
は私です」と、罪を打ち明けたのです。

さて、もしみなさんが善太郎さんと同じ立場におかれたら、この事態をどのよう  
に受けとめ、対処するでしょうか。





## 楽しく仏道を歩む

この話のように、やみくもに人を非難したり、人の話も聞かずに自己主張したりする人には、できれば会いたくありません。まして、どろぼう扱いされたりすれば、冷静に受けとめられないのがふつうです。

その意味でも、善太郎さんの対応には感心するばかりですが、では、どうして何も釈明しないまま、善太郎さんは事態を受け入れることができたのでしょうか。

私は、「阿弥陀さまにすべてをおまかせしている」という、善太郎さんの絶対的な「信」によるものではないかと思えます。「やまいことは何もない。仏さまはすべてご照覧<sup>しょうらん</sup>なのだ」。そうした、悠々<sup>ゆうゆう</sup>として安らかな気持ちがあればこそ、あのように受けとめることができたのでしょうか。

「いう人もいわれる我<sup>われ</sup>ももろともに 同じ蓮<sup>はちす</sup>の台<sup>うてな</sup>なるらん」という道歌がありますが、仏の前ではすべての人が平等ですから、その場で身の正しさを申し立て、相手をやりこめるのはつまらないこと、と考えたのかもしれません。

法華経<sup>ほけきょう</sup>の「勸持品<sup>かんじほん</sup>」に「我身命<sup>われしんみょう</sup>を愛せず 但無上道<sup>ただむじょうどう</sup>を惜む<sup>おし</sup>」という言葉があります。信仰者の強い意志を示す一節ですが、この言葉は、命さえ惜しくないという意味だけではないと思えます。いま、この地球に生まれて生きている奇跡に気がつけば、「自分さえよければいい」と自己<sup>しゅうじやく</sup>に執着している場合ではない、生かされあう縁<sup>えにし</sup>に感謝することが大事なのだ、という意味にも受けとれます。

「但無上道を惜む」は、そのような感謝に目ざめたら、一人でも多くの人と感謝の気持ちを共有しよう、ということではないでしょうか。法華経の教えによって感謝に目ざめた私たちであれば、その教えを人に伝え、生きる喜びと感謝をともどもに味わおうと、一步を踏み出すことです。

ただ、それは相手を変えようとか、説き伏せようとするものではないと思えます。喜びをもって仏の教えを実践し、人びとと心楽しくふれあうなかで、いま命あることの有り難さに目ざめてくれる人がいれば、それでいいのです。

先の善太郎さんの話は、「草餅説法<sup>と</sup>」といひます。娘さんの心を解かした妙好人のあたたかさに、悠々として、心安らかに生きる信仰者の神髓<sup>しんずい</sup>を見る思いがします。

(『佼成』2020年5月号)





## 共に迷い、悩み、喜び合いーサンガと歩む



江東教会  
勝本 依利香

この体験説法は、2020年2月1日に大聖堂で行なわれた  
朔日参り(布薩の日)式典で発表されたものです。

皆さまお願いします。

私は昭和49年に大久保家の長女として産んでいただきました。1つ上の兄と6つ下の弟との3人兄弟です。私は小さい頃から周囲の期待に応えようと頑張りすぎて、甘えることや弱音を吐くことのできない子どもでした。

父は芸人で仕事柄家にいることがほとんどなく、私にとって父親像は希薄なものでした。母は勝気な性格の半面、父と大喧嘩をした後で反省して涙を流すなど、情に脆く優しい面もありました。父は仕事で家を顧みることをせず、母もその寂しさを埋めるためか外出が多く、留守を任されるのは、兄や弟ではなくいつも私でした。私は両親への不満と、この先、我が家はどうになってしまうのかという不安を常に抱えながら育ちました。

短大を卒業して幼稚園に就職した頃、現在の主人と出会いました。私が甘えられる唯一の存在でした。主人という時だけは不安な気持ちが和らぎました。平成12年、結婚を機に実家を出てしばらくすると、母に肺がんが見つかりました。抗がん剤治療で母が入退院を繰り返さなければならなくなる状況を考え、私たち夫婦は実家で両親と同居することにしました。母の闘病中、私は年子で子どもを授かり、ほんの短い間でしたが孫の成長を見守ってくれた母は、平成16年に55歳で旅立ちました。長女が1歳5か月、長男は生後3か月でした。

子育てに追われ、悲しむ暇もなく一周忌の法要を終えた翌月、今度は父が脳梗塞で倒れました。そ

れからは、子育てと介護の重圧が、同時に私の肩にのしかかってきました。毎日が必死で、不安を抱え精神的に疲れ果てた私は自律神経失調症と診断されました。当時の支部長さん、主任さんが心配し、お手どりに来てくださいました。

今思えば、その時が佼成会に深いご縁をいただいたきっかけでした。私は信仰三代目ですが、それまで佼成会の活動にはほとんど参加していませんでした。初めて婦人部の根本義研修に参加した時も、当時の安間教会長さんに「仏さまのことは信じられません」などとお話していた私でした。半信半疑な気持ちで教会に足を運ぶ私に、主人は「この教えが本物かどうか確かめてみれば?」と背中を押してくれました。

放送、司会、開祖さまや会長先生のご著書の拝読など、お役で道場に行く回数も増えていきました。しかし先祖供養や親孝行の大切さを教えていただいても、父の介護のために子どもたちに我慢をさせていると思うと、父に優しくできず、そんな自分を責めて



大聖堂で説法する勝本さん

いました。身体が自由に動かなくなったうえ、妻を亡くしたばかりの父の気持ちなど全く分かつとせず、父さえいなければと思うこともありました。また、介護に全く協力してくれない兄や弟を恨む気持ちも強くありました。

そんな時に出会ったのが堀田さんです。彼女とは子どもの保育園が同じでした。生い立ちを聞くと壮絶なものでした。母親に「あなたなど生まれてこなければよかった」と言われ、自分の存在意義を見出せずに生きてきたと話してくれました。また、当時小学1年生の息子さんには発達障害があり、ご主人はそれを受け入れられず、夫婦の関係がぎくしゃくし、そのため彼女はうつ病を患い、たった一人で悩んでいました。私よりも、もっと大変な堀田さんを見ると、自分の悩んでいることがちっぽけに思えました。幸せになってもらいたい一心で、婦人部の研修や法座で学んだことをお伝えすると、堀田さんはそれらを家庭で実践し、少しずつ夫婦のコミュニケーションがとれるようになりました。そして出会ってから5年目の平成22年、私が教師資格を拝受した年に、堀田さんをお導きさせていただきました。

しかし、彼女の家庭に明るい兆しが見え始めた矢先の平成23年9月、ご主人が脳内出血で突然亡くなってしまったのです。42歳でした。同じ月に我が家はご本尊勧請のお手配をいただきました。私はその時、自分の無力さを感じ、なぜもっと早くお導きをしなかったのかと後悔しました。堀田さんはご主人の死を受け入れられず、うつ病が悪化し、家の中はひどい状態でした。小学生の二人の子どもたちは食事のままならず、私は毎日のように食事を作って届けました。この先どのように関わっていけばいいのかも分からないまま、思い切って道場の寒中読誦修行の最終日に誘いました。すると、車でなら行くと言うのです。たくさんの薬のせいで朦朧としている彼女の運転が心配で、私はお数珠を握りしめて同乗しました。しかし、心配は現実となり、バイクとの接触事故を起こしてしまったので

す。幸い相手の方は軽傷でした。ご主人を亡くしたショックから、現実と向き合えずにいた堀田さんでしたが、他人の人生を狂わせてしまったかもしれない事故を起こしたことで、ハッと我に返ったようでした。

その事故以来、彼女は少しずつ日常を取り戻し、道場に再び足を運べるようになりました。そして会員教育Ⅰを受講し、自らの苦を見つめた時、「常に消えてなくなりたいと思い、心に蓋をして生きてきたけれど、本当は幸せになりたいと願っていたことに気づけた」と話してくれました。私は堀田さんが幸せになるためにどうしたらよいのかずっと考えてきましたが、本当の救いとは本人自らが教えの通りに実践し、気づくものであり、私は彼女と一緒に迷い悩み、時には共に喜びながら傍にいただけでよかったのだと気づきました。堀田さんは、生かそうとしてくださる仏さまの大きなお慈悲を私に教えてくれました。

平成27年、私は主任のお役をいただきました。お役、仕事、介護、子育てと忙しい日々ではありましたが、受け持ちの信者さんをはじめサンガの皆さんから、「親孝行ができるって有り難いね!」「頑張っているね!」「この教えは絶対だよ!」と、いつも励ましや支えをいただけてきました。

父を最後まで家で介護させていただこうと覚悟を決めた時、思いがけず施設に入所できる知らせを受けました。父に言い出せず悩みに悩んでいた時、当時の白倉教会長さんから「親孝行の形は色々あるのですよ」と、父の介護に充てていた時間を菩薩行に使うことで功德をいただけるとご指導いただき、決心しました。父はたった一言、「ママの写真だけ持って行けるか…」と入所を受け入れてくれました。

そんな父の思いを胸に私は会員教育Ⅲの受講を請願しました。講師さんから「目の前で起きる現象は、これはこれ、それはそれではなく、すべて仏の慈悲で繋がっていると見ることを学ばせていただき、問題の解決に囚われず、ありのままを認める努力ができるよう

# Spiritual Journey

になりました。すると信者さんとの関わり方も変わっていきました。同じ介護の悩みを持つ信者さんの気持ちに共感し、精一杯頑張っている姿を称えさせていたくなかで、自分の経験が少しでも役に立つことの喜びを感じることができました。

また、ある信者さんは反抗する娘さんに対して、親として何もできず悩んでいました。その姿を通し、闘病中の母のことを思い出しました。孫を抱く力もなく、私を助けたくても何もできず、母はどれほど切なかったことでしょうか。介護が辛かった時、母は霊界で私を心配してくれていたのだと思えました。

おかげさまで父の施設は道場に近く、毎日会いに行くことができます。今では昔の思い出話などをしながら、父は「お前の顔を見ると無事に一日が終わった気がするよ」と言ってくれます。こんな穏やかな日が来るとは思ってもいませんでした。

導きの子である堀田さんはうつ病が完治し、教師資格を拝受しました。今は地区の組長として私を支えてくださっています。下の娘さんは、お母さんが心配で学校へ行けない時期もありましたが、自ら自立への一歩を踏み出し、お母さんと一緒にお役をしてくれています。

現在、私は新たなご法のご縁をいただいています。私の弟と同年代で、30年間引きこもりをしているという男性です。彼は心の拠り所だったお母さんを亡くしたばかりでした。お話を真剣に聞かせていただくなかで、気が付けば四九日まで亡くなられた方がどんな旅をして霊界に行くのかなど、亡きお母さんへのご供養の話をしていました。

彼は「母のためにご供養をしたい」と言い、初七日にあたる翌日から七日毎のご供養を続けました。お母さんのために自らお花を買いに行き、初めての読経も一生懸命に声を出していました。毎回のご供養の度に胸の内を話してくれ、今では私の家にお参りに来てくれるようになりました。私は焦ることなく、安心してその男性と関わらせていただいています。それができるのも、教

えによって自らの苦を乗り越えた堀田さんが、一緒に彼の幸せを願い、応援してくださっているからです。

毎朝、教会の法座の中で、志村教会長さんは「どんなことも悪いことにしない」ことの大切さをお話しされ、すべてを認め称えてくださいます。すると、私の心に安心感と余裕が生まれ、生かそうとくださる仏さまの働きが自分の中にすっと入ってくるように感じます。

今回の説法のお役を通し、「この教えが本物かどうか確かめてみれば?」と背中を押してくれた主人が、これまでどんな思いで私を心配し、支え続けてくれたのか、主人の深い愛情に改めて気づかせていただき、感謝の思いで一杯です。

幼い頃からいつも不安を抱えながら生きてきた私でしたが、今ではこの教えが人生の道標となり、支えてくれる主人と二人の子どもたち、サンガの皆さまのおかげさまで、安心して前に進むことができます。来月は母の十七回忌を迎えます。月命日である一日に説法の大役をいただき、今も霊界で私を応援してくれている母の思いが伝わってきます。

本年、会長先生より「即是道場」とご指導をいただきました。今、自分がいる場所を大事に、これまで私がしていたように、出会う人に安心し喜んでもらえるよう、私らしくふれあい、教団創立百年に向け、多くの方々とつながっていくことをお誓いさせていただきます。

皆さま、ありがとうございました。



お父さまと

**Living the**  
 **LOTUS**

# 法華三部經

## 各品のあらましと要点

### 妙法蓮華經 從地涌出品第十五



この品から、いよいよ仏というものが明らかにされる〈本門〉に入ります。この品の前半が本門の序文（序章）で、その後半から、次の《如来寿量品第十六》の全部、その次の《分別功德品第十七》の前半までのいわゆる〈一品二半〉が、正宗分（本論）となるわけです。

#### 他方の菩薩の誓願

さて、世尊が《安樂行品第十四》の説法を終えられますと、他の方々の国土からきていた無数の菩薩たちが立ち上り、「もしお許しくださいませならば、わたくしどももこの娑婆世界にとどまり、世尊のご入滅後もこの教えを護持し、説きひろめたいとぞんじますが、いかがでしょうか」と申し上げます。

世尊は、「お志はありがたいが、その必要はありません。この娑婆世界には、ずっと昔から無数の菩薩たちがおり、法華經を説きひろめる役目はその人たちが担ってくれるからです」とお答えになりました。

#### 地涌の菩薩の出現

その瞬間、大地に無数の割れ目ができ、そこから、ほとんど仏に近いような貴相を具えた菩薩たちが、かぞえきれないほど湧きだしてきたのです。その中の指導者格である上行・無辺行・浄行・安立行という四大菩薩は、お釈迦さまの前に進み出て、ご挨拶を申し上げますと、お釈迦さまは、たいへん親しげにそれにお答えになります。

#### みろくぼさつ 弥勒菩薩の疑問

そのありさまを拝していた、弥勒菩薩をはじめとする娑婆世界の菩薩たちは「このような立派な菩薩がたは、いったいどこからこられたのか、どういう因縁の人たちなのか」という疑問を起こしました。そして、弥勒菩薩がそのことをお釈迦さまにお尋ねいたしますと、「大地から湧きだしたこれらの菩薩たちは、わたしが娑婆世界において悟りを開いてから教化したもので、いままで娑婆世界の下の虚空に住していたのです。そして、この菩薩たちは、遙かな昔からわたしが教化してきたのです」とお答えになります。



さあ、いよいよ分からなくなりました。お釈迦さまが悟りをお開きになってから、まだ四十余年しかたっていないのに、ほとんど無数ともいべきこの人たちを、しかも仏さまに近いほどの立派な菩薩に育てあげられたということは、どうしても腑に落ちません。それに、長いあいだ仏さまのおそばに仕えていたのに、この人たちをいっぺんも見ることがないのです。

かと思うと、今度は「実は、遙かな昔から教化してきたものである」とおっしゃるのですから、まったく頭がこんがらかってしまいそうです。たまりかねた弥勒菩薩が率直にそのことを申し上げて、教えを請うところで、この品は終わっています。

### ほんげ しゃっけ 本化の菩薩と迹化の菩薩

ここで、本化の菩薩と迹化の菩薩について、述べておきたいと思います。

迹化の菩薩とは、迹仏に教化された菩薩たちのことをいいます。迹仏とは、インドにお生まれになり、菩提樹下で悟りを開かれたお釈迦さまのことです。ですから、迹化の菩薩とは、この世に生をうけた人間である菩薩なのです。

本化の菩薩とは、本仏に教化された菩薩たちのことをいいます。本仏とは、いうまでもなく、この後の《如来寿量品》において開顕される久遠本仏のことです。その本仏に教化されたのが、本化の菩薩である地涌の菩薩であったのです。ですからまだ、無量の寿命をもつ久遠本仏のことを知らない弥勒菩薩たちは、お釈迦さまのいわれたことが何かなんとか分からなかったのです。

このように本化の菩薩と迹化の菩薩には、はっきりとした違いがあり、本化の菩薩である上行等の四

菩薩をはじめとする地涌の菩薩が、いかにすばらしい菩薩であるかが、ここで口をきわめてほめたたえられております。

なぜここで、本化の菩薩の立派さが強調されているのかといいますと、〈本化の菩薩たる自覚〉をもつものが、いかに尊くすばらしい存在であるかを、強く印象づけるように表現したかったからです。そして、すべての人に〈地涌の菩薩のような、すばらしい存在になりたい〉というあこがれと、願いをもって欲しかったからにほかなりません。ですから、ここで一つの伏線として、このような表現がなされたのです。

つまり、このあとの《如来寿量品》で明らかにされることですが、この世に生をうけたお釈迦さまご自身が、久遠本仏そのものであるわけです。ですから、お釈迦さまがまさしく久遠本仏であることを知り、自分がその本仏の実子であることを心底から確信し、本仏として説かれたこの法華経を実践するならば、すでにその人は生身の人間でありながら、本化の菩薩なのであります。

それゆえ、迹化の菩薩と本化の菩薩は本来は一つであり、決して別のものではないのです。

従って、現代のわれわれも、お釈迦さまの教えを学び、実践し、その人の能力の範囲内だけで世の人を救うはたらきをするだけならば〈迹化の菩薩〉であり、もし「自分は久遠の本仏に教化された地涌の菩薩であり、本来本仏と一体の身である」ということを心底から自覚し、本仏の本願を自分の本願として、法華経の精神をもって菩薩行を行なえば、外見の振る舞いは同じでも、立派な〈本化の菩薩〉であります。迹化の菩薩と本化の菩薩は、外から見れば同じような信仰形態をとっているように見えますけれども、その信仰内容に立ち入ってみると格段の開き

があり、それが教化・救済のはたらきにあらわれてくるわけです。

## 地涌の菩薩の価値

この品に突然あらわれてきた〈地涌の菩薩〉については、いろいろな見方考え方がありますが、特に次の三つのことが大切だと思います。

第一に、お釈迦さまが、他の世界から来ている菩薩の申し出を断られて、地涌の菩薩にこの娑婆世界の教化を任せられたということ。

それはつまり、〈どの世界でも、そこに住んでいる人びと自身の努力によってその世界を平和にし、自身の手で幸福な生活を築きあげていかねばならない〉という教えです。

第二に、娑婆世界の下の虚空に住して、悟りの境地を楽しんでいた菩薩たちが、お釈迦さまのお声に応じて、大地をくぐりぬけて出現したということ。

〈娑婆世界の下の虚空〉に住している菩薩というのは、たしかにこの世の人でありながら、〈空〉の悟りに安住し、その悟りを人間世界救済のために発動せずにいる人です。〈空〉の悟りとは、人間に即していえば、〈人間の本质は平等な仏性である〉ということですから、たしかにこの真理は悟っているけれども、内にその悟りを楽しんでいるだけで、外へ向かってはたらきかけようとしない人です。それでは、その人自身は汚れのない立派な人ですけれども、衆生救済の役には立たないのです。

どうしても、一度大地をくぐりぬける必要があります。すなわち、現実社会の生活を体験し、汚れと濁りの中であえいでいる大衆の中に飛び込み、その苦しみ悩みにじかに触れる必要があるのです。そうしてこそ、ほんとうに人間を指導し、救済することが

できるわけです。つまり、<sup>かんねんろん</sup>観念論だけではだめで、現実に即さなければ生きた人間は救えないということです。

第三に、それらの地涌の菩薩たちの指導者格である四大菩薩に、上行・無辺行・浄行・安立行と、すべて〈行〉という名がつけられているということ。

法華経の前半は、主として理の教えであり、智慧の教えでしたが、その前半の説法が終わったとたんに、これらの〈行の菩薩〉が無数に出現したというのは、いうまでもなく、教えは実践しなければなんにもならぬということにほかなりません。前半の迹門の説法で説かれた諸法実相の<sup>しやくもん</sup>智慧を現実生活にあらわし、慈悲の行ないとして実践する行動者こそ、真の菩薩であり、ほんとうに仏の教えをこの世に生かす人なのです。このことは、現世のわれわれにもそっくりそのまま当てはまることですから、よくよく心しなければならぬことだと思います。

(庭野日敬著『法華三部經 各品のあらましと要点』  
佼成出版社、2016年〔初版 1991年〕、p. 148-156)



## 楽しく仏道を歩む

皆さん、新型コロナウイルスの感染拡大で心落ち着かない日々が続きますが、元気にお過ごしですか？

今月の会長先生のご法話は、「悠々として、心安らかに」です。閉塞感あふれる中での日々の精進のあり方をご指導いただきました。江戸時代の妙好人善太郎のように、身に覚えのないどろぼう呼ばわりされても、言い訳もせず、仏さまにお任せしていると言い切れる信心深さがあると、悠々として安らかな気持ちで過ごせると示されました。

勸持品の「我身命を愛せず、但無上道を惜む」を引用され、この地球上に生かされている縁に感謝することが大事であると示され、今あるいのちの有り難さに目ざめる人が一人でも増えるようにと願って教えを伝える生き方が、楽しく仏道を歩むことであるとご指導いただきました。

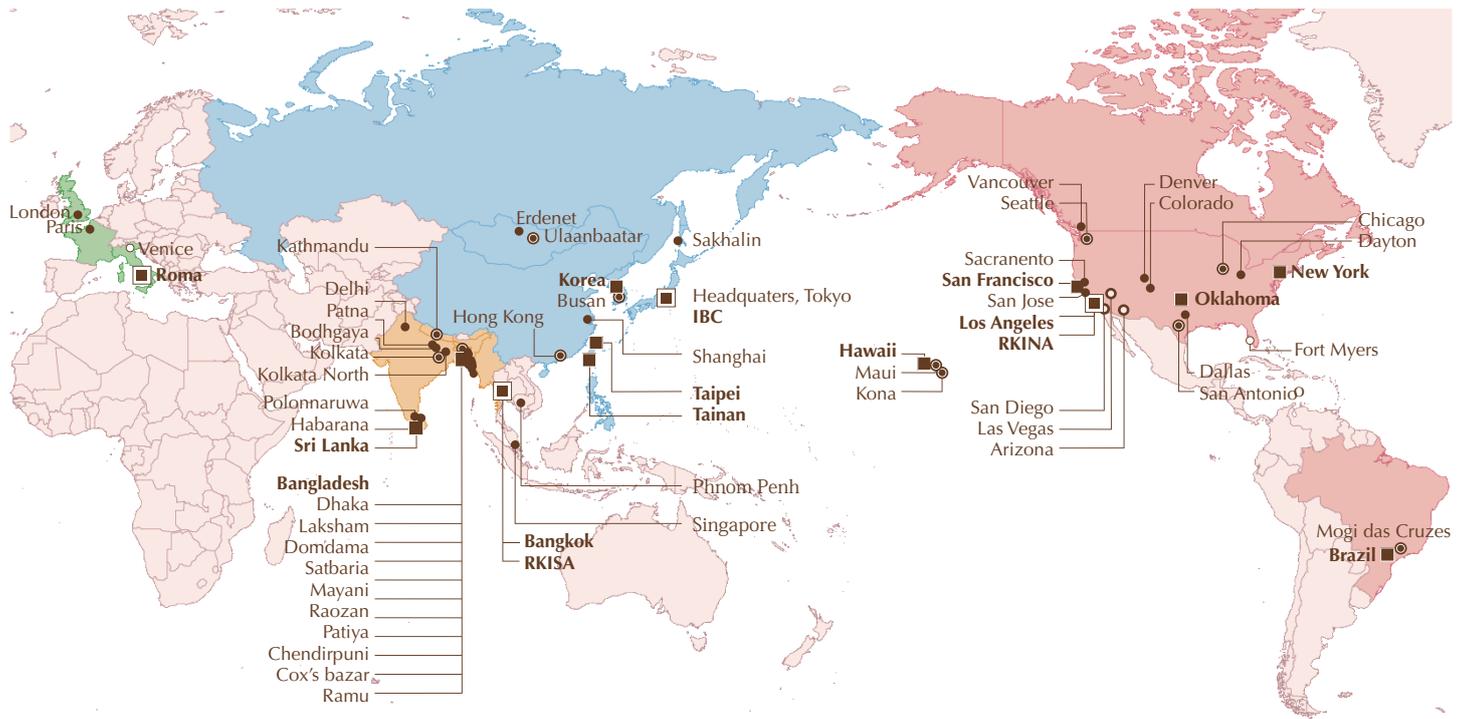
今月は、そのような心構えで布教伝道に取り組ませていただきましょう。

国際伝道部長  
齋藤 高市



✉ *Living the Lotus* では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。  
お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。  
E メール : [living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)

# Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



## Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, USA  
 TEL: 1-808-455-3212 FAX: 1-808-455-4633  
 Email: [info@rkhawaii.org](mailto:info@rkhawaii.org) URL: <http://www.rkhawaii.org>

## Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, USA  
 TEL: 1-808-242-6175 FAX: 1-808-244-4625

## Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, USA  
 TEL: 1-808-325-0015 FAX: 1-808-333-5537

## Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, USA  
 POBox 33636, CA 90033, USA  
 TEL: 1-323-269-4741 FAX: 1-323-269-4567  
 Email: [rk-la@sbcglobal.net](mailto:rk-la@sbcglobal.net) URL: <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas**

## Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, USA  
 POBox 778, Pacifica, CA 94044, USA  
 TEL: 1-650-359-6951 Email: [info@rksf.org](mailto:info@rksf.org)  
 URL: <http://www.rksf.org>

Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco

- Rissho Kosei-kai of Sacramento**
- Rissho Kosei-kai of San Jose**

## Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, USA  
 TEL: 1-212-867-5677 Email: [rkny39@gmail.com](mailto:rkny39@gmail.com) URL: <http://rk-ny.org>

## Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, USA  
 TEL: 1-773-842-5654  
 Email: [murakami4838@aol.com](mailto:murakami4838@aol.com) URL: <http://rkchi.org>

## Rissho Kosei-kai of Fort Myers

URL: <http://www.rkftmyersbuddhism.org>

## Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th St., Oklahoma City, OK 73112, USA  
 POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, USA  
 TEL: 1-405-943-5030 FAX: 1-405-943-5303  
 Email: [rkokdc@gmail.com](mailto:rkokdc@gmail.com) URL: <http://www.rkok-dharmacenter.org>

## Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago St. #809 Denver, CO 80204, USA  
 TEL: 1-303-446-0792

## Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

617 Kling Drive, Dayton, OH 45419, USA  
 URL: <http://www.rkina-dayton.com>

## The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First St., Suite #1, Los Angeles, CA 90033, USA  
 TEL: 1-323-262-4430 FAX: 1-323-262-4437  
 Email: [info@rkina.org](mailto:info@rkina.org) URL: <http://www.rkina.org>

## Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

(Address) 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, USA  
 (Mail) POBox 692042, San Antonio, TX 78269, USA  
 TEL: 1-210-561-7991 FAX: 1-210-696-7745  
 Email: [dharmasanantonio@gmail.com](mailto:dharmasanantonio@gmail.com)  
 URL: <http://www.rkina.org/sanantonio.html>

## Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, USA  
 TEL: 1-253-945-0024 FAX: 1-253-945-0261  
 Email: [rkseattlewashington@gmail.com](mailto:rkseattlewashington@gmail.com)  
 URL: <http://buddhistlearningcenter.org>

## Rissho Kosei-kai of Vancouver

Please contact RKINA

## Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil  
 TEL: 55-11-5549-4446, 55-11-5573-8377  
 Email: [risho@rkk.org.br](mailto:risho@rkk.org.br) URL: <http://www.rkk.org.br>

Facebook: <https://www.facebook.com/rishokosseikaidobrasil>  
Instagram: <https://www.instagram.com/rkkbrasil>

### Risho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP, CEP 08730-000, Brasil

### 在家佛教韓國立正佼成會

〒 04420 大韓民國 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3  
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea  
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

### 在家佛教韓國立正佼成會釜山支部

〒 48460 大韓民國釜山廣域市南區水營路 174, 3F  
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea  
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

### 社團法人在家佛教立正佼成會

台灣台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大廈 4 樓  
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongheng District, Taipei City 100, Taiwan  
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

### 台南市在家佛教立正佼成會

台灣台南市崇明 23 街 45 號  
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan  
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488  
Email: kosekaitainan@gmail.com

### Risho Kosei-kai South Asia Division

Thai Risho Friendship Foundation  
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand  
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218

### Risho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

### Risho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

### Risho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059, West Bengal, India

### Risho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center

Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rumpur, Gaya-823001,  
Bihar, India

### Risho Kosei-kai of Patna Dharma Center

### Risho Kosei-kai of Central Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,  
New Delhi 110060, India

### Risho Kosei-kai of Singapore

### Risho Kosei-kai of Phnom Penh

W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo,  
Phnom Penh, Cambodia

### RKISA Risho Kosei-kai International of South Asia

Thai Risho Friendship Foundation  
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand  
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

### Risho Kosei-kai of Bangkok

Thai Risho Friendship Foundation  
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand  
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218 Email: info.thairisho@gmail.com

### Risho Kosei Dhamma Foundation

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka  
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

### Risho Kosei-kai of Polonnaruwa

### Risho Kosei-kai Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh  
TEL/FAX: 880-31-626575

### Risho Kosei-kai Mayani

Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

### Risho Kosei-kai Damdama

Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

### Risho Kosei-kai Patiya

China Clinic, Patiya Sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

### Risho Kosei-kai Satbaria

Village: Satbaria Bepari Para, Chandanaih, Chittagong, Bangladesh

### Risho Kosei-kai Chendhirpuni,

Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong,  
Bangladesh

### Risho Kosei-kai Dhaka

408/8 DOSH, Road No 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh

### Risho Kosei-kai Laksham

Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

### Risho Kosei-kai Cox's Bazar

Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

### Risho Kosei-kai Cox's Bazar, Ramu Shibu

### Risho Kosei-kai Raozan

Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

### Buddiyskiy khram "Lotos"

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia  
TEL: 7-4242-77-05-14

### Risho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

### Risho Kosei-kai Friends in Shanghai

### Risho Kosei-kai of Ulaanbaatar

(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoro-1, Chingeltei district,  
Ulaanbaatar 15160, Mongolia

(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia  
TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

### Risho Kosei-kai of Erdenet

### Risho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia  
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

### Risho Kosei-kai of the UK

### Risho Kosei-kai of Paris

### Risho Kosei-kai of Venezia

### Risho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)

166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F  
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan  
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: <http://www.ibt-rk.org>